

ありがとうの会を終えて

子どもたちは、先日の「ありがとうの会」の中で、幼稚園で楽しかったことについて、自分の言葉をしっかりと伝えていました。お客様の前で緊張したり、様々な感情があふれたりしても、心を落ち着かせてやり遂げた姿に胸が熱くなりました。「大丈夫、いつも通りに。」と、信じて待った担任とともに、静かに見守っていた子どもたちの温かな絆を感じられた場面でした。幼児期に育てたい、「心情」「意欲」「態度」の全てが、ここにありました。まさに、ふくろ幼稚園で大切にしてきた教育の集大成だと思っています。

また、「家族ふれあいデー」のYouTube 配信で、ありがとうの会当日の演目を披露するために練習してみると、楽しさが膨らみ、リラックスして伸びやかに歌や言葉を表現する姿もありました。同じ内容でも、子どもたちの新たな一面が見られたことは、何よりでした。

さて、最近の子どもたちは、毎日の「お休み調べ」を職員室に持参する際、欠席の理由や人数などを順序立ててはっきりと大きな声で伝えてくれます。「ありがとうの会」を終えた子どもたちからは、やり遂げた自信を感じ、頼もしく思います。

さらに、遊びにおいても、以前よりも、様々なことに目的意識を高くもって、自分で決めた目当てに向かって真剣に取り組む姿も多くなりました。一つやり遂げたことは、次への活力につながっていて、連動していくと感じます。今、伸び盛りの子どもたち！ますます期待して見守っていきましょう。

幼い頃の思い出

私が幼い頃、我が家には、双六のようなボードゲームがたくさんありました。家族一緒に、こたつに入りながら、何度も繰り返したときの様子は、今でも目の前に浮かびます。カルタや、トランプの七並べ・ババ抜き・神経衰弱などをすることも、大好きでした。

私は負けず嫌いでしたので、自分が負ける度に怒ったり泣いたりしていたことも、よく覚えていてます。その度に、家族からは、「怒るから、もう遊ばない。」と言われ、涙をこらえたこともありました。一つ年上の兄と親は、泣いている私を勝たせてやろうとは思わずに、手加減なく遊んでくれていたのだと思います。今思えば、我慢する心を育ててもらえたのかもしれない。当時、弟が生まれたばかりで、手がかかる時期だったのですが、夕食後のほんのひととき、家族一緒に本気で遊んでもらえたからこそ、その時のことが、心に残っているのだと感じています。

さて、この度幼稚園から、カルタや凧などの遊び道具を配布しました。ぜひ、家族のふれあいのひとときに活用していただければと思います。家族一緒に遊んだ貴重な体験として、いつまでも心の中に、温かい情景が残りますように……。